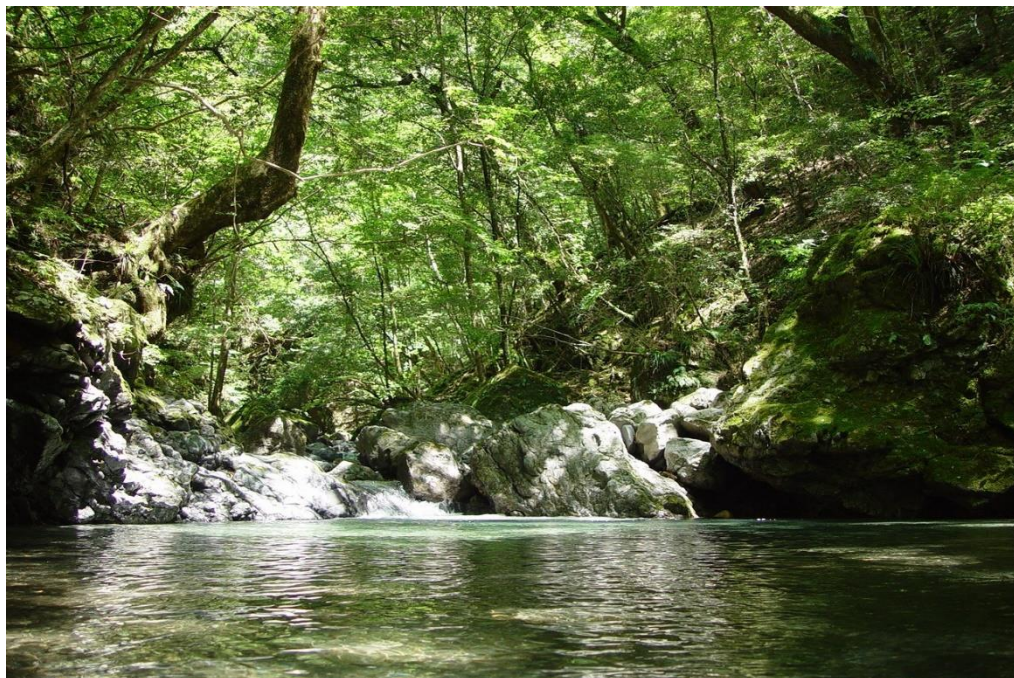


令和4年度第3回

地域フォーラム参加者のみなさま

感謝!!



水源地の村づくり

～都市にはない豊かな暮らしを築くために～



奈良県川上村

令和4.11.5 川上村長栗山

忠昭



奈良県川上村の概要

◆ 位置・地形

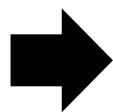
- ・ 奈良県の南東部に位置
- ・ 面積 269.26km² (**95%**が山林)
- ・ 吉野川 (紀の川) の 最源流 に位置

◆ 歴史

- ・ 吉野林業発祥の地 (日本遺産に認定)
- ・ 南北朝時代、悲哀の歴史舞台に
- ・ 令和元年、「村制施行 **130** 周年」を迎えた
(11/16【源流の日】…「日本記念日協会」に登録)

◆ 人口

- ・ **1,156** 人
- ・ 高齢化率 **55.5** %



子ども(0~14歳)が
5年間で **17%増**

過疎、挑戦中!!

「村の宝」が急増中!!



源流に住むものの誇りと使命を決意！

- 平成8年に全国に向けて「川上宣言」を発信。

川上村の歩む未来を示す“**村是**”として村づくりの中心的存在



1996年8月1日、全国に「川上宣言」を発信しました。

- 私たち川上は、
かけがえのない水がつくられる場に暮らすものとして、
下流にはいつもきれいな水を流します。
- 私たち川上は、
自然と一体となった産業を育て、山と水を守り、
都市にはない豊かな生活を築きます。
- 私たち川上は、
都市や平野部の人たちにも、川上の豊かな自然の価値に、
ふれあってもらえるような仕組みづくりに励みます。
- 私たち川上は、
これから育つ子どもたちが、自然の生命の躍動に、
すなおに感動できるような場をつくれます。
- 私たち川上は、
川上における自然とのつきあいが、地球環境に対する人類の働きかけの、
すばらしい見本になるよう努めます。

樹と水と人の共生

歴史に翻弄されながらも、その答えは・・・

● 「水源地の村づくり＝樹と水と人の共生」を決意

- ✓ 平成6年第3次総合計画「吉野川源流物語」を策定
- ✓ 平成8年「**川上宣言**」を全国に発信 ⇒ SDGsの実現に寄与
- ✓ 平成11年 吉野川（紀の川）の源流に位置する
740haの原生林を村が購入。**水源地の森**として保全

● 想いは着実に下流、都市部にも伝わり

- ✓ 平成23年、**吉野川分水**でつながる大和平野から
きれいな水への感謝の気持ちとして「**おかげ米**」が届く
- ✓ 平成26年「**全国豊かな海づくり大会**」にて
天皇皇后両陛下（当時）が行幸啓されました。



～水のつながりプロジェクト～

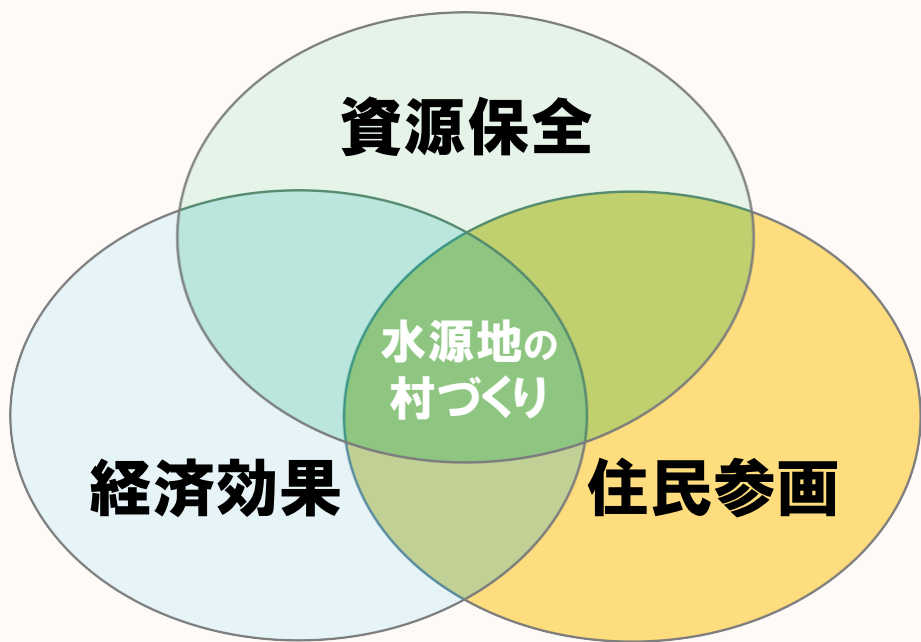
都市部と水源地との交流で想いをつなぐ

小学生による田植・稲刈体験や川上村を訪れる源流体験を通じて、大和平野と川上村が交流することで「おかげ米」の双方の想いを継承。
大切な水を下流へ送る誇りと責任に気づききっかけ





かわかみ源流ツーリズム ～資源を活かして住民と共に経済効果を図る～



- ・源流の保全と資源の活用
- ・「資源保全」も「経済効果」も住民が主役
- ・経済効果の創出を狙う

具現化に向けた仕組み

➡ 「かわかみ源流ツーリズム」

■川上村の取組み

1996 「川上宣言」を発信

2009 川上村環境基本条例

2019 環境省エコツーリズム推進法全体構想認定

2022 かわかみ源流ツーリズムの推進



かわかみ源流ツーリズムは、基本理念
 川上村の豊かな自然、歴史、文化を保全・継承しながら
 村民、村内外の事業者などみんなが関わる取り組みにより、
 魅力的な地域資源とのふれあいや学びの機会を提供し、地
 域振興に寄与することを目的とします。

「かわかみ源流グループ」

運営母体

環境・教育に強みのある
 公益財団法人吉野川紀の川源流物語
 観光振興に特化した
 一般財団法人かわかみ源流ツーリズム



都市にはない豊かな暮らしを築くために

1. 住み心地（居心地）を整えること。
2. 新しい出会い、つながりを求めること。

水源地の村づくり（持続可能な未来へ）



川上宣言の具現化

住み心地
（居心地）を
整えること

- | | |
|-------------------------------|------------------------|
| ① 「一般社団法人 かわかみらいふ」 | …コミュニティ機能強化、生活支援 |
| ② 「一般社団法人 吉野かわかみ社中」 | …林業の再生、6次産業化 |
| ③ 「事業協同組合かわかみワーク」 | … “複業” による多様な働き方、担い手確保 |
| ④ 「誰もが健やかに暮らすこと」
重層的支援体制整備 | …地域で高めるwell-being |
| ⑤ 「コミュニティバス事業」 | …移動手段の確保、利便性の向上 |
| ⑥ 「おてったいさん制度」 | …行政と住民のパイプ役 |
| ⑦ 「通信環境整備」 | …防災力の強化+テレワーク推進 |

かわかみ源流
ツーリズム

新しい
出会い
つながりを
求めること

- | | |
|------------------------------------|----------------------|
| ① 「公益財団法人 吉野川紀の川源流物語」 | …環境保全、流域交流、啓発活動 |
| ② 「水源地の村の観光と交流」 | …観光振興、プログラム企画、広報宣伝 |
| ③ 「多様な関わり方の創出」
…川上ing作戦、交流事業の展開 | …移住定住推進、関係人口の構築 |
| ④ 「地域おこし協力隊」 | …若者定住、地域活性化 |
| ⑤ 「未来への風景づくり」 | …民間企業との共創 |
| ⑥ 「保育園・義務教育学校の設立」 | …教育の拡充、人づくりは “教育” から |
| ⑦ 「大学との連携」 | …地域の “人財” 育成、交流連携の強化 |

④ 誰もが健やかに暮らすこと (地域で高めるwell-being)

重層的支援体制整備

地域での暮らしをベースに取り組んできた 行政・福祉実践の蓄積と国の新規事業のマッチング

川上村のこれまでのあゆみと強み

- H25 「おてったいさん」制度スタート
 - ・「生活現場 (=地域) へ行き届ける」という首長の強い意志
 - ・役場全職員を部署横断で集落へ割り当て
- H27 共生型の地域ケア会議スタート
 - ・介護保険法による地域包括支援センターを属性を問わない共生型で運営
 - ・同法によるケア会議に保健医療福祉の全分野担当が参加
- H28 かわかみらいふ設置・コミュニティナース配置
 - ・かわかみらいふによる移動スーパー、個別配達
 - ・コミュニティナースの配置
 →どちらも地域をベースにしており、属性を問わないサービス、支援を展開

地域を基盤とする福祉体制

チーム対応で職員も安心
個々の対応力もアップ!

チャットで
迅速な情報共有 !!

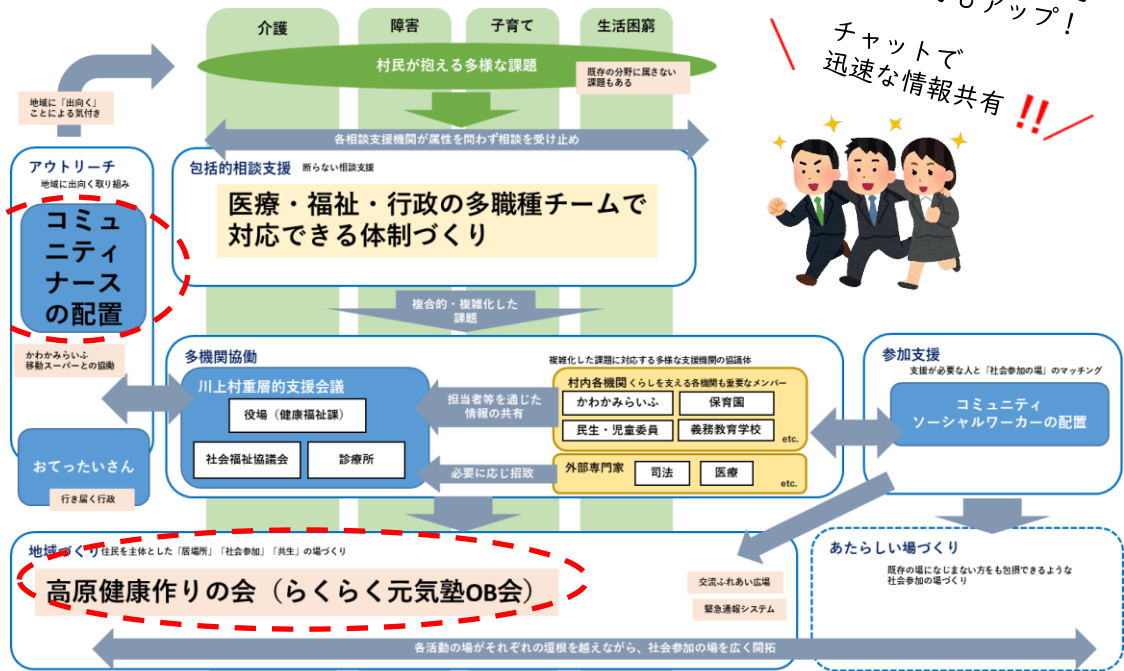


→重層的支援体制に容易に移行できる土壌が整う
コミュニティナースの配置により、福祉だけでなく医療分野をも一体的に運営できる

R03 移行準備事業開始

- ・コミュニティナースの増員
- ・有資格のソーシャルワーカーを配置し
 - ①住民の地域福祉活動を支援
 - ②多機関協働をコーディネート
- ・チームによるケース対応の経験を重ね、スタッフの力量を底上げ

R04 重層的支援体制整備事業へ移行 (奈良県初)



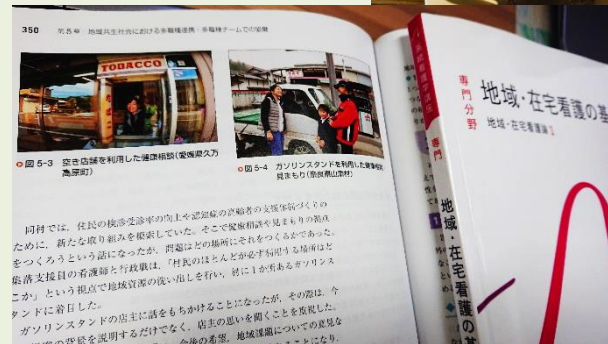
④ 誰もが健やかに暮らすこと (地域で高めるwell-being)

コミュニティナースの配置

- ◆看護師が、かわかみらいふの「移動スーパー」に同行。
毎週出会うことで、村民の**心身状態のベースライン**を把握できる！
- ◆**日々の暮らし**の身近なところで、年代や属性を問わない**声かけ**や**見守り**を実施。
リアルタイムで情報が入ってくる
- ◆救急のレスポンスタイムが長い東部エリア拠点（かわかみらいふ）に常駐。
相談や応急対応を通じて、安心を届けている。



川上村のコミナスの取り組みは
教科書や令和4年度高齢社会白書で
紹介されています！



④ 誰もが健やかに暮らすこと (地域で高めるwell-being)

高原健康作りの会

- ◆村実施の一般介護予防事業が発展した住民主体の「通いの場」。身体機能の維持向上のみならず、「ババアのお泊り保育（要配慮者等の避難所宿泊体験）」「高原カフェ」など、地域の福祉ニーズを的確にとらえた幅広い活動を展開中。モットーは**まず自分たちが楽しむ！**
- ◆行政や社協は、よき**パートナー**でありたいと、地域生活の質を高める住民の活動を**側面的に支援**。運営や方向性の相談にのったり、文書をまとめるちょっとしたお手伝いなど。
- ◆川上村には、大小さまざまなこのような会が、17か所存在している。

第8期介護保険料

4600円 (県内で最も低い)

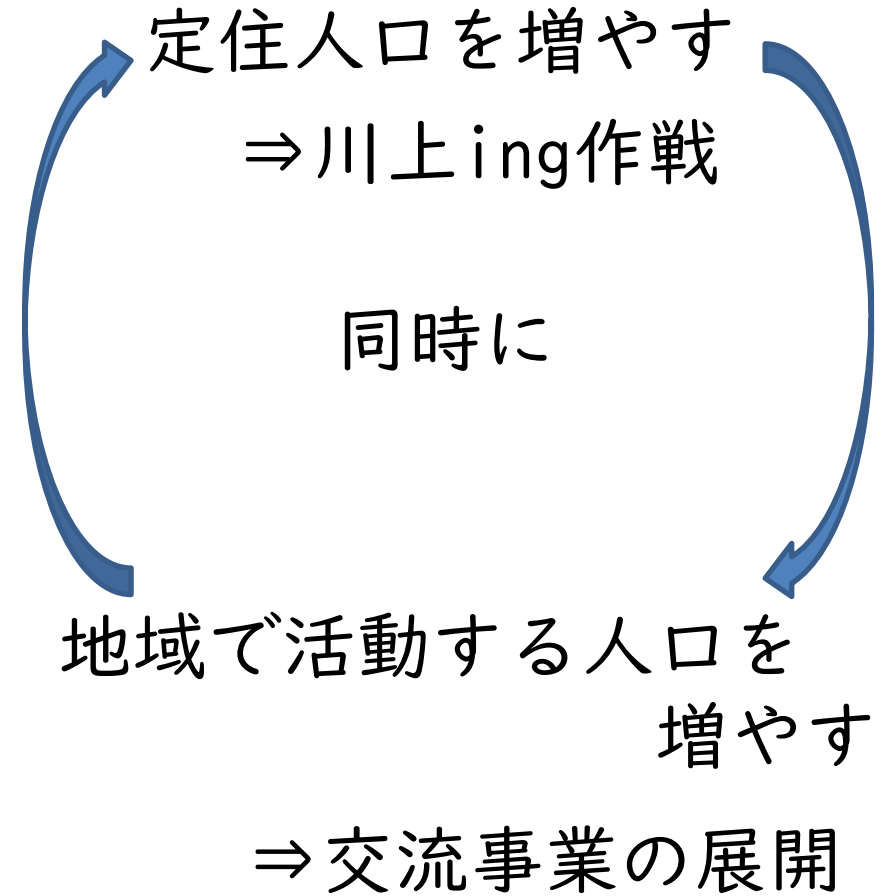
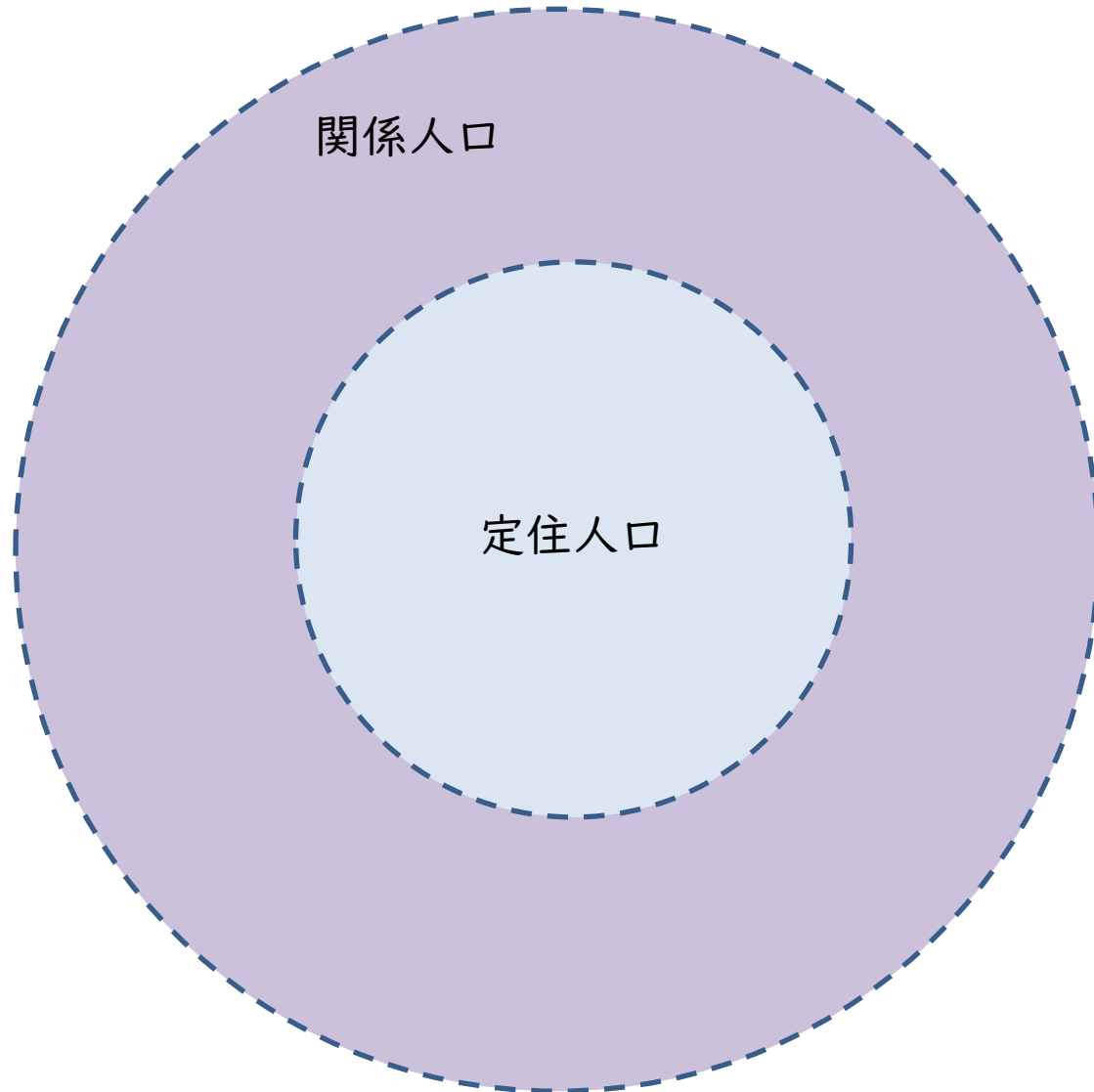
奈良県平均は5851円



健康は
食事や運動のほか
コミュニケーションや
人との出会い
ふれあいが大切



③ 多様な関わり方の創出



③ 川上ing作戦（移住定住推進）

事業内容

水と人が澄む
～自然あふれる村で子育てしてみませんか～

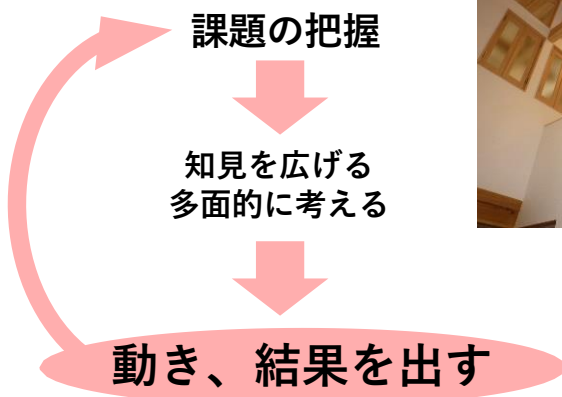
2014年から**83人**
(全村民の7%)の
移住実績!

- 2013年より「定住」「移住」を重点施策に取り組みはじめた「川上ing作戦」。
✓「職」の相談から「住」の紹介まで、暮らしをバックアップ。
(移住ツアーによる村案内や体験、川上産材を贅沢に使用した村営住宅、シェアハウス等の住宅整備。)

空前の

ベビーラッシュ!

- 村での暮らしの支援に取り組んだ結果、若者世代が定着し、
子ども(0~14歳)の人口は、2015年**59人**が2020年に**69人**に!
- 「住まい」「仕事」「暮らし」「子育て」「教育」の5つの施策をワンセットとして
子育て世帯に向けての情報発信を強化。



③ 交流事業の展開（関係人口の構築）

暮

ふるさとワーキングホリデー

村で働きながら遊び
「暮らし」を体感する2週間。
人との交流を通じて、村民
参加者双方にとって自らを知る。



北九州市立大学との連携

学

村の課題の解決策を提案するPBL学習
オンライン学習とフィールドワークで
解決策を練り上げていく



感

村づくりを体感し、都会では気づかない
新たな視点を得ることで地域空間を活かす
人材を育成する

地域づくりインターン



水源地の村づくりの目指すみらい

みんながHAPPY!!

源流を愛し、守り多様な価値観が共生する村

- 人口や経済の大きさだけで語れない `価値、あり。それらを磨き、発信する。
- 都市とは異なる低密度の暮らしがしっかりと存在することが国の底力になる。
- 「誰一人おいてきぼりにしない」行政！

座右の銘 「民 信なくんば立たず」





ご清聴ありがとうございます